

## 議会報告会報告書

開催日時	平成30年4月20日（金）午後7時00分～9時00分	
開催場所	漕代地区市民センター	
出席議員	中島清晴、殿村峰代、市野幸男、栗谷建一郎、沖 和哉、松岡恒雄、山本 節	
	司会進行者	沖 和哉
	報告者	松岡恒雄
	記録者	殿村峰代
参加人数	24名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 山本 芳 敬 様

平成30年4月26日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第2班

代表者 中島 清晴

## 【第一部の主な質疑応答・意見等】

問 中心市街地整備事業の松阪地区の駅前整備計画を含めて何年計画で、目玉は何かと  
いった内容など詳しく教えてほしい。

答 短期5年、中期10年、長期20年と駅西地区は中・長期を目途としている。  
市民の皆さん等とワークショップを行うなど、この195万5千円はこれらの話をす  
るための予算付けがなされたところ。これから計画していくという事。

問 財政調整基金で補うという事か。

答 財政調整基金(財調)は約100億円ある。いわば松阪の貯金のことである。  
市長は借金が増えないように中心市街地の整備計画を作っていくとしている。  
古くなったものも直していかないといけないものもあり、具体的にはまだ何も出てい  
ない。しかし中・長期と20年後先のことは皆考えにくいものでもある。  
駅西地区については、以前徹夜で審議したことがあるが、駅前が寂しくなっており、  
これが松阪の顔ではいけないと、20年先のものでもあることから若い人の意見を聴  
き反映していけるようにワークショップを開いて、議会の中でも審議していきたい。

意見 箱ものであるからお金がかかる。予算など十分に考えていただきたい。

問 学校にエアコンをつける具体的な見積もりや電気にするかガスにするかなど熱源  
のことももっと詳しく聞かせてほしい。

答 平成31年度末までに全幼小中学校にエアコンをつけることになった。26億円ほ  
どの事業予定。30年度からのように発注するか、電気・ガスなどの熱源については  
両方検討している。施工後の管理も含め、かなり大きな事業になるため、一括して事  
業者に任せることになる。現在アドバイザーが計画しているところ。一番有利な方向  
で発注し、合併特例債を利用したいので、来年度中という短期間で行う必要がある。

問 エアコンの設置について、他市府県の状況などきちんと調査してつけることになっ  
たのか。

答 各中学校区単位で市長がアンケートを取り、調査をした。文科省は教室の温度を  
30度以下と奨励している。各幼稚園、小中学校で温度を調べ、夏季に30度を超え  
ない教室は、すでに設備のある学校1校と飯高と記憶している学校の2校のみで、  
40度近くになる教室もある。各学校の教師は、鼻血を出すなど熱中症にならないか  
生徒の体調を大変心配し、勉強どころでない状態という事で市長が決断した。

問 駅西ワークショップについて、もう少し詳しく。

答 大きな事業をする場合、各地区の代表者や有識者の方に参加してもらい、話し合う  
テーブルを設けて、皆が納得できる答えを見つけてゆくのがワークショップ。様々な  
年代、方向から積極的な意見が出るように考慮していく。

問 鈴の音バスも通らず、都市計画から外れているため、忘れ去られた地域ではないのか。何かやってもらうことはないのか。

答 市街化地域と市街化調整区域の違いというのは松阪全体に言えること。人口減少は、当地域でもいえる。地域に人が住んで初めて地域は活性化する。それらを地域でやれという事は困難。まちづくり協議会でも当地域は「まかせて漕代支援隊」などの高齢者を含めた支援事業を展開していると認識している。

問 広瀬町では現在Iターン、Uターン等でかなり若い世帯の人口が増えているらしく、学校の教室が足りなくなっているという。何か政策があったのか。

答 その認識はなかった。Uターンで補助があるものもあるが、一度調べてみる。

問 原案賛成だったが、ここにいる議員は個人でも行政の監視機能として反対したのか。どのような指摘をしたのか。

答 今回の議会は共産党から始まり各会派の代表者が質問した議会であった。質問内容は、この資料に記載してあるが、それぞれさまざまな角度から行政案に質問し、回答をもらった。その中で議決をする際反対をするものもあったが、原案は可決したという結果になった。その過程の詳しい内容は、ホームページにも載っているが、今回議会が何を活動しているかという事を記した「議会白書」を出す予算化された。今年11月にこれが出る。また、今回の議会内容は6月の広報と同時に「みてんか」が発行される。詳しいことが掲載されるので、ご一読いただきたい。

問 法田町の水道のループ化がなされ、消火栓が機能するようになった。市長にお礼を伝えてほしい。しかし、もう少し事前につけてくれれば、火事も小さくて済んだと思うが、いまだ消火栓の無い稲木にも早くつけてほしい。

答 水がなく消火が大変だったという事を聞いている。地元自治会長からも聞いているので、市長には合わせて伝える。

問 稲木は近隣のパナソニックがなくなり、住民が県外市外へ転出している。企業誘致で魅力的な街になれば人も戻ってくると思うが、市街化調整区域で住宅の建設の制限もあり、戻ってきても住みにくい条件もある。これをなんとかできないか。

答 そのような要望が多く出ている。工業団地に海外の企業誘致も提携できたので、現在、適当な地域を探しているところ。要望を伝える。

意見 漕代地区も活性化していただきたい。このままでは保育園もなくなる。道の駅を作りたいなど夢は持っているのでぜひ力を貸してほしい。

## 第2部用【地域防災について】

### 【主な質疑応答・意見等】

問 台風などで櫛田川が氾濫することはないか。堤防がまだ嵩上げの済んでいない箇所がある。これを何とかしてほしい。

答 隣が川なので心配はわかる。しかし、最近では100年に一度の豪雨など従来の規模を超えての災害が各地で発生している。100%氾濫しないとは言えない。一級河川の櫛田川は国の管轄であるが、これが氾濫したら大変なことになる。市、県とも協力して市民の方々が安心して暮らせる地域となるよう要望していきたい。

問 この地域は海拔11メートル程で津波避難区域ではないが、櫛田川の堤防に亀裂が入り、その後大雨が降れば大変危険。以前訓練した避難場所が小学校という事になっているが、平たん地などの住民は、低い土地を通過して避難するのか。

答 地域地域で災害の在り方は当然異なる。ポイントは情報の共有。民間の施設なども含めて情報の共有をして安全に避難できる場所などを決めていく必要がある。松阪市も昨年度から大きく見直しを始めている。地域の防災計画として住民の皆さんとともに考えていき、議会としても皆さんの命にかかわることであるから真剣に議論していきたい。

意見 いつ起きるかわからないことであるので早急に対応・検討をお願いしたい。

問 法田町から流れてくる用水路と横地・目田町の用水路の水を櫛田川に流している。大雨などで櫛田川の水位が上がると逆流してくるので、2か所ある樋門を閉じる。しかし、昨年の台風21号のように雨量が多いと用水の水があふれて目田町のあたりの田が冠水する。早馬瀬の寺、墓も冠水し、法面も崩落した。水が引いた後、稲わらが水の高さを示していた。遊水地のようになっていたので、この門のところに排水ポンプの設置を検討してもらいたい。

答 ご心配はよくわかる。松阪全体のことであり、湛水防除として市の防災対策に位置づけていけるよう検討したい。

意見 稲わらの撤去も自分で行った。装備のある方はよいが、ないものは困ると思う。冠水しないように、櫛田川の上流で水位が上がる箇所が2か所ある。この樋門のところに排水ポンプを早急に検討していただきたい。

問 この防災計画はどのような災害を想定して考えているか。またいつ計画ができる予定か。

答 南海トラフ地震などの大きな災害を想定しているが、各地域の地理的状況などによって被害も異なるため、すべてを網羅している計画にしていく必要がある。ここ1～2年のうちに防災計画を作る必要がある。また同時に自助・共助のレベルを改定するためにもこれまでのデータを作っただけであれば地域における防災対策もできるのではないか。また我々議会も地域を理解することができ、計画を進めていける。

問 東南海地震は第二次世界大戦並みの被害があると思っている。この中で自助・共助という行政に不信感があるが、何もしないという事ではなく発展途上という事で理解してよいか。

答 みんなが作っていく防災計画である。もちろん公助の部分は行政がしっかりやるが、自助の部分では家具の固定や備蓄品の準備など、共助の部分では地域の連携や避難所運営等地域で作っていくもの。すべてのことを行政ができないので、情報を共有して、どこまでが行政ができて、あとは皆さんの力が必要というようにという事は必要。家具の固定など市からの補助のあるものもあるので活用してもらいたい。

問 消防隊からの意見。漕代地区は防災訓練が十分ではないと思う。公助ばかりをあてにしてはいけない。自助・共助をもっと強化してほしい。

答 「まかせて漕代支援隊」等ネットワークがしっかりしており、防災訓練も出前講座等利用してほしい。この地域は津波被害を受けないと想定されている。受け入れ地域として訓練しているため、地域でかなりの違いがある。

議会も松阪全体を考えている。これから先、櫛田川の決壊もないとは限らないので、この地域の方々にはしっかりリーダーシップをとって要援護者の方々の避難のことも考えていただきたい。伊勢湾台風など経験され方の話を若い方にも伝えて、過去の知恵を受け継いでいただく機会を設けていただきたい。